

テーマ3 スポーツとまちづくり



市長・最後は少し視点を変えます。本市は全国で初めてスポーツ都市宣言を行って今年で50周年を迎えます。今、日本で深刻なのは、人口減少と高齢化が同時に進んでいることです。そういう中で、市では健康寿命を延ばそうとさまざまな取り組みを行っています。そういった時代背景を受けて、スポーツとまちづくりという観点から、もし何か考えていること、あるいは提案があれば、ぜひお話ししていただけたらと思います。

中村さん…私はスポーツ推進委員として、新たな競技を広げようという取り組みを行っています。最近ではフロアカーリングが人気ですが、小さな子どもから年配の方までできるスポーツですので、ぜひ皆さんに広めていきたいと考えています。幅広い年代で行えるスポーツは、年配の方と子どもたちの交流の場を与えてくれますよね。子どもたちは年配の方の上手な動きなどを見て感動していますし、年配の方も、自分の孫世代の子たちと一緒にできる喜びが張り合いになっているなど感じています。そういう風景をもっと見たいです。そうしたらより多くの市民の方が気軽に参加できるのか、いろいろと考えて工夫していきたいと思えます。

小金澤さん…小学5年生と中学2年生を対象に行う運動習慣調査では、苦小牧の小・中学生は、運動が好きという項目では全国・全道平均より高いですね。ただ、運動部活動やクラブに入っているという項目では平均より低い結果でした。スポーツは好きだけれども、機会に恵まれていないのかなということを実感しました。われわれ体育協会としても、もっとスポーツに参加できる環境づくりを進めていかなければと再認識しました。また、多くのスポーツはボランティアによって支えられていると思います。例えば王子イーグルスの試合などの運営にもっと市民が加わる、それによって、まちを挙げてイーグルスを応援し盛り上げていける、そういう環境づくりもできたらなと考えています。

佐々木さん…強く感じていることは、野球でいうと少年野球の子どもたちが非常に少ないということです。いろいろな方からご支援も頂きながら、気仙沼の子たちと苦小牧の少年野球の子たちと一緒に試合をしたり、野球教室をさせてもらったりしています。そうしたことでも少しでも野球に興味を持ってもらい競技人口が増えてくれればと思います。アイスホッケーでは王子イーグルス、プロ野球では北海道日本ハムファイターズの選手、そういう人たちと子どもたちとの交流の場をもっとつくることで層を厚くしていきたいと感じて

います。

大澤さん…スケート教室やアイスホッケースクールは、私たち王子イーグルスの選手たちも参加させていたでいていますが、子どもたちは本当に一生懸命プレーをして楽しんでますし、とてもいい機会だと思います。しかし一方で、アイスホッケーも競技人口が減っているというのが現状で、小・中学校のチーム数が年々減少しています。氷都苦小牧でアイスホッケーを活性化させるためにも、トップリーグで競技している私たちが熱い試合を皆さんに見せていかなければいけないと思います。より多くの家族連れの方にリンクに足を運んでいただくためにも、アジアリーグ優勝を目指して頑張ります。王子イーグルスの勝つ姿を見せることで、アイスホッケーって面白いんだってことを今の子どもたちに伝えていければと思います。

市長…さまざまな立場から貴重なご意見を頂きました、ありがとうございます。

このまちの先輩たちは全国で初めてスポーツ都市宣言をし、市民みんな運動をしながら心と身体を鍛えていこうと考えました。その宣言から今年で50周年になります。なぜ、「スポーツ」なのか。皆さんのさまざまな経験を通して得られたお話から、スポーツの持つ可能性や力、魅力などをたくさん教えていただきま

した。競技をする人だけでなく、観る人もスポーツを通して得られるものは大きく、スポーツによって成長させられます。青少年の健全育成に役立ったり、健康寿命を延ばしたり、スポーツでまちが盛り上がり人が集まるということは、観光や産業分野への波及効果も期待できます。スポーツ都市宣言から50周年を迎えるに当たって、スポーツをまちづくり・地域の活性化に大きく活用し、将来にわたって市民が豊かで健康に暮らすことができるような、活気みなぎるスポーツ都市苦小牧を目指して、これからもまちづくりを進めていきます。

